

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00550

研究課題名（和文）バントゥ諸語における主語のプロパティに関するマイクロバリエーション研究

研究課題名（英文）Micro-variation of the subject properties in Bantu languages

研究代表者

米田 信子（Yoneda, Nobuko）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授

研究者番号：90352955

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はアフリカ大陸赤道以南に広く分布するバントゥ諸語における主語と主題の関係を比較・類型化することである。ウガンダ、タンザニア、ルワンダ、ナミビアで行った現地調査に加えて国内外の研究者の協力を得ることで、30以上のバントゥ諸語のデータを収集することができた。これらのデータを基に、語順と呼応関係の観点からバントゥ諸語の主語と主題の関係を3つのタイプに類型化し、さらにそのバリエーションの通時的分析を行った。この分析結果は国際学会および国内外の研究会で発表した他、現在、日本語と英語での論文を執筆中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究のテーマは、バントゥ諸語の主語の研究においても情報構造研究においても補完されるべきテーマであり、この研究成果は、バントゥ諸語の通時的研究にも貢献するものと思われる。また、バントゥ諸語のマイクロバリエーションの国際的共同研究が近年盛んになっており、本研究は個別のプロジェクトであると同時に、国際的な共同研究の一端でもある。さらに主語と主題は、一般言語学的にも関心を持たれてきたテーマであり、日本語や欧米言語とは系統がまったく異なるバントゥ諸語の研究成果は、バントゥ諸語研究のみならず、広く類型論や対照研究にも大きく貢献することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to compare and typify the relationship between subject and topic in Bantu languages, which are widely spoken south of the equator in Africa. Field research conducted in Uganda, Tanzania, Rwanda and Namibia, together with the corporation of both national and international researchers, enabled the collection of data on more than 30 Bantu languages. Based on these data, I have classified the subject-subject relations in the Bantu languages into three types in terms of word order and agreement patterns. A diachronic analysis of the variations has also been carried out. The results of the analysis were presented at conferences, and papers in Japanese and English are currently being written.

研究分野：言語学

キーワード：バントゥ諸語 主語 主題 マイクロバリエーション 国際共同研究

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

バントゥ諸語には主語接辞と呼ばれる動詞の呼応接辞がある。この接辞は「主語と一致する」とされるが、実際は、論理的主語と一致する言語、最も主題性の高い要素と一致する言語、その両方との一致が可能な言語などバリエーションがある。主語接辞の一致をはじめ、何が「主語」とみなされるのか、すなわち「主語」という要素に求められる条件は言語によって異なるが、多くの場合そこには主語の主題性が関わっている。バントゥ諸語の広域な分布を考えれば、時間の流れの中でこのような違いが出てくるのは当然のことであるが、主語に関するこれまでの研究は、多くが個別言語の主語の記述にとどまり、言語差の実態、バリエーションについてはほとんど論じられてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、アフリカ大陸赤道以南に広く分布するバントゥ諸語の主語のプロパティを比較し、その類型化をすることである。バントゥ諸語には主語接辞と呼ばれる動詞の呼応接辞がある。本研究では、主題性を中心に、バントゥ諸語の主語のプロパティを比較検討する。具体的には、主語接辞と一致する要素の条件、主語位置(文頭)に置ける要素の条件、主題文と中立叙述文における主語の差異、焦点との関係に関する対象言語のデータを収集・分析し、バントゥ諸語の主語のプロパティに見られるバリエーションの解明をめざす。

## 3. 研究の方法

将来的にバントゥ諸語の情報構造全般の比較研究に発展させていくことを念頭に置きつつ、本研究期間中には、(i) 調査対象言語のデータ収集と分析、(ii) 言語間の差異の分析と類型化、(iii) 主語のプロパティに関するマイクロバリエーション研究のパラメータ整備までを行った。

本研究の基盤となるのがデータ収集である。データは以下のような方法で収集した。

- 現地調査：タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、ナミビアにおいて現地調査を実施
- 文献調査：記述文法書や論文がある言語についてはそれらの文献からデータを収集
- 研究ネットワークの利用：国内外のバントゥ諸語研究者からのデータ提供

基礎調査項目は以下のとおりである。

- 1) VS 語順は容認されるか？容認される場合、SM はどの要素との一致が可能か？
- 2) OVS 語順は容認されるか？容認される場合、SM はどの要素との一致が可能か？
- 3) 場所名詞が文頭に置かれた場合、SM はどの要素との一致が可能か？
- 4) 基本語順 SVO のままで主語の WH 疑問文を作ることができるか？
- 5) 基本語順 SVO のままで主語の後ろにとりたて小辞を続けることができるか？
- 6) 基本語順のままで主語の後ろに焦点マーカーを置くことができるか？
- 7) 倒置した主語の後ろに焦点マーカーを置くことができるか？

#### 4. 研究成果

上記の方法で約 20 言語のデータを集めることを目標にしていたが、目標をはるかに上回る 30 数言語のデータを収集することができた。それらのデータを基に、以下のようなことが明らかになった。

- (1) バントゥ諸語における主語と主題の関係は、①主語接辞と一致する要素の条件、②文頭に置ける要素の条件を基に、大きく 3 つのグループに分けることができる
- (2) 共時的な現象から分類した 3 つのグループの違いは、通時的プロセスとしても考えることができる
- (3) 通時的プロセスとして考える際に、①と②が同時に移行した言語だけでなく、一方だけが移行した言語もある

これらの成果は、国際学会、国内外の研究会およびワークショップ等で発表した。また現在、日本語と英語の論文を執筆中である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Yoneda, Nobuko	4. 巻 8-2
2. 論文標題 Non-causal/ Causal verb alternations in Swahili	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Linguistique et Langues Africaines	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/lla.4561	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 米田信子	4. 巻 2
2. 論文標題 「バントゥ諸語の参照文法書 バントゥ諸語研究における参照文法書の位置づけ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『参照文法書研究』（アジア・アフリカ言語文化研究別冊）	6. 最初と最後の頁 213-255
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/116967	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大野仁美・河内一博・中川裕・亀井伸孝・森壮也・宮本律子	4. 巻 100
2. 論文標題 新しいアフリカ言語研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アフリカ研究	6. 最初と最後の頁 67-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Kutsukake, Sayaka and Nobuko Yoneda	4. 巻 16
2. 論文標題 Contact-induced language divergence and convergence in Tanzania: Forming new varieties as language maintenance.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Swahili Forum	6. 最初と最後の頁 189-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Yoneda, Nobuko
2. 発表標題 Subject properties in Bantu Languages.
3. 学会等名 International Workshop of ILCAA-BantUGent Joint research Project "The Past and Present of Bantu Languages" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yoneda, Nobuko
2. 発表標題 Degrees of definiteness in Swahili locative constructions.
3. 学会等名 The 9th International Conference on Bantu Languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoneda, Nobuko
2. 発表標題 Properties of the Subject in Bantu Languages.
3. 学会等名 JSPS-FWO Joint Project Kick off Meeting. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoneda, Nobuko
2. 発表標題 Non-locative uses of locative enclitics in Herero (R31).
3. 学会等名 The 9th International Conference on Bantu Languages (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoneda, Nobuko
2. 発表標題 Inchoative / Causative verb alternations in Swahili.
3. 学会等名 10th World Congress of African linguistics (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田信子
2. 発表標題 湯川データ：120を超えるバントゥ諸語の並行的データ
3. 学会等名 日本言語学会第163回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田信子
2. 発表標題 スワヒリ語の「限定」を表すとりたて表現
3. 学会等名 Prosody & Grammar Festa 5 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 米田信子
2. 発表標題 「バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究とは？(新しいアフリカ言語研究3：バントゥ諸語のマイクロバリエーション研究)」
3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会
4. 発表年 2020年

## 〔図書〕 計4件

1. 著者名 永原陽子（責任編集）、松田素二、寺嶋秀明、酒井信三、鈴木英明、網中昭世、竹内進一、米田信子、刈谷康太、杉山祐子、正木響、荒木圭子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 アフリカ諸地域 ~20世紀	

1. 著者名 鄭聖汝、柴谷方良、堂山英次郎、西岡美樹、Rajesh Kumar、Akua Campbell、Haowen Jiang、田村幸誠、米田信子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 576
3. 書名 体言化理論と言語分析	

1. 著者名 梶茂樹、小森淳子、古閑恭子、仲尾周一郎、若狭基道、宮崎久美子、品川大輔、古本真、高橋康徳、安部麻矢、阿部優子、米田信子、Seunghun J. Lee	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 327
3. 書名 アフリカ諸語の声調・アクセント	

1. 著者名 野田尚史、米田信子、他17名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 360
3. 書名 日本語と世界の言語の取り立て表現	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------